

【事例8】

便をいじって
しまうのです
が…



＜対応例1＞

叱らず、手の汚れを取る。
不快感が原因になるため、「すぐに気づけなくてごめんなさい」「きれいにしましょう」など、優しく声をかけて、お風呂場に誘導する。

＜対応例2＞

消化に良い食事や水分摂取を心がけ、自然な排便を促す。腸の動きを良くするマッサージなどを行う。

＜対応例3＞

汚してしまいそうな場所を予測し、汚れを処理しやすいように環境を整える。

例) ベッド周辺に防水シートを敷いておく。
壁にビニール製のシートを貼っておく。

＜対応例4＞

排泄リズムや排便前の行動・サインを把握して、便意を催したタイミングに合わせて、トイレに誘導する。

本人の
気持ち

- ・失敗したことが恥ずかしい、隠したい
- ・便意がわからない
- ・お尻に便がついて不快、蒸れて気持ち悪い
- ・便が何だかわからず、触って確かめたい

望ましくない対応例

- ・怒る
- ・いやな顔をする
 - ⇒自尊心が傷つき、他の問題行動を引き起こすこともある
- ・汚れを落とすため、お風呂に誘導する際、本人が嫌がっているのに、無理に連れていく
- ・急ぐあまり、シャワーの水温が低いまま使用してしまう
 - ⇒風呂場が嫌なことが起こる場所という記憶だけ残り、入浴を拒否するようになる

